

GPT-6 Astra の登場で知財業務はどう変わるか

— GPT-5.6 (Sol) 時代との比較 —

公式発表・第三者評価・法制度動向に基づく整理（Claude Fable 5→5.1 版との対比を含む）

Claude Fable 5.1

2026 年 9 月 6 日

【凡例】本稿では、OpenAI 公式発表等の一次資料または公表された第三者評価により確認できた事項を【確定】、筆者の分析・見立てを【分析】として区別する。参考文献は文中に上付き番号で示し、文末に一覧を記す。URL は実際に確認できたもののみ記載し、確認できないものは「URL 未確認」と付記した。情報は 2026 年 9 月 6 日時点であり、ロールアウトは進行中のため価格・提供範囲は変動しうる。

1. 要旨

- 【確定】GPT-5.6 (Sol) は 2026 年 7 月 9 日に一般提供、GPT-6 Astra は 2026 年 9 月 3 日にリリースされた（API 名 gpt-6-astra、名称は公式）^{1,2,3}。5.6→6 Astra の中核的变化は「テキスト生成」から「コンピュータ操作を伴う自律的タスク遂行」への移行であり、OpenAI は Astra を自社史上初めて Preparedness Framework の「Critical（サイバーセキュリティ）」閾値に到達したモデルと位置づけている^{3,4}。
- 【確定】知財業務で実際に効く改善は、①100 万トークン級長文脈の検索信頼性（MRCR v2 8-needle 512K-1M：73.8%→96.3%）、②ハルシネーション率の低下（内部指標 12.2%→4.2%）、③コンピュータ操作の精度・安全性向上、の 3 点に集約される³。一方、独立系総合指標（Artificial Analysis Intelligence Index v4.1.1）では Astra 61.2 に対し Sol 60.9 とほぼ横ばいで、Claude Fable 5.1（65.7）が上位にある^{5,6}。法務近接ベンチ（Vals Legal Research Bench、Harvey Legal Agent Benchmark）でも Astra は中位にとどまる⁷。
- 【分析】知財部門が取るべき対応は「マルチモデル使い分け+ガバナンス再設計」である。コンピュータ操作エージェント固有のリスク（プロンプトインジェクション等）が新たな管理対象となり、ChatGPT Enterprise の ZDR・監査ログ整備が前提条件となる。Claude

Fable 5→5.1 が「同一コアの微調整＋価格・データ保護改善」だったのに対し、5.6→6 Astra は「世代交代＋エージェント基盤刷新」であり、変化幅は大きいですが、汎用知能面では宣伝と実測の乖離も目立つ。

2. モデルの事実確認【確定】

2.1 GPT-5.6 (Sol/Terra/Luna)

- 2026 年 6 月 26 日に限定プレビュー、7 月 9 日に一般提供開始。Sol が最上位フラグシップで、コーディング・科学・サイバーセキュリティを重視^{1,2}。
- 文脈長 1,050,000 トークン。API 価格はプロモーションで入力 4 ドル／出力 20 ドル（標準は入力 2 ドル／出力 10 ドル相当）^{8,1}。Altman 氏はコーディングで 54%のトークン効率化を主張¹。
- Preparedness Framework の「Critical（サイバー）」閾値には未到達²。

2.2 GPT-6 Astra

- 2026 年 9 月 3 日リリース。API 名 gpt-6-astra、文脈長 1,050,000 トークン、最大出力 128,000 トークン、知識カットオフ 2026 年 4 月 30 日^{3,9}。
- API 価格は入力 10 ドル／出力 50 ドル（Sol の約 2.5 倍）。Fast mode は 2 倍速・2 倍価格^{3,10}。
- 大規模訓練（Stargate／テキサスで 10 万超 GPU）で構築。Brockman 社長は記者ブリーフィングで「generational leap」「Welcome to the AGI era」と発言する一方、「AGI はグレーで曖昧なもの」と留保しており、断定ではなく主観的評価である¹¹。

2.3 提供形態・安全対策

- 段階的ロールアウト（初日は限定組織／Daybreak→ChatGPT Plus・Pro・Business・Enterprise、API、Azure、AWS Bedrock）。Enterprise は管理者が明示的に有効化するまで既定で無効^{3,9}。
- 公開版は高度サイバータスク（PoC エクスプロイト作成等）を拒否し、緩和版は Daybreak の審査済み組織のみに提供^{4,3}。安全チェックが正当な業務（防御的セキュリティを含む）を停止・中断する場合がある。

- ・ 8 月 1 日に発表された内部版「Astra」と同一系統であり、「GPT-6 Astra」は公式名称³。

3. 5.6→6 Astra で「実際に」変わったこと【確定】

OpenAI 公表値（自社評価・独立検証前・多くが最大 effort 設定）を整理する。伸びが大きいのは、コンピュータ操作・エージェント的科学研究・長文脈・信頼性であり、汎用推論の伸びは小さい。

指標	GPT-5.6 Sol	GPT-6 Astra	備考・出典
OSWorld 2.0（コンピュータ操作）	65.7%	72.6%	^{3,12}
ScreenSpot-Pro（GUI 要素の認識）	76.9%	92.7%	³
AutomationBench（業務自動化）	18.1%	41.4%	2 倍超 ³
Terminal-Bench 4.0（エージェント的コーディング）	37.3%	57.9%	³
DeepSWE v1.1	72.7%	74.1%	小幅 ³
FrontierMath Tier 4（数学）	83.0%	97.6%	³
GPQA Diamond（科学）	94.6%	96.0%	飽和域 ³
Terminal-Bench Science（エージェント的科学研究）	22.4%	64.6%	最大の伸び ³
MRCR v2 8-needle 512K-1M（長文脈検索）	73.8%	96.3%	1M 級文書処理で大幅改善 ³
内部ハルシネーション指標	12.2%	4.2%	低いほど良 ³
内部コンピュータ操作安全指標	22.0%	2.4%	低いほど良 ³
権限逸脱テスト	48%	0%	Hugging Face 事件を踏まえた設計 ³
ExploitBench／SRE-Bench（サイバー）	78.5%／ 55.9%	100%／ 88.0%	公開版は高度サイバータスクを拒否 ^{3,4}

注：いずれも OpenAI 自社評価。最大 effort 設定・ハルネス差により第三者測定とは乖離しうる（3.1 参照）。

3.1 第三者評価：宣伝と実測の乖離

- **【確定】** 独立系総合指標では横ばい：Artificial Analysis Intelligence Index v4.1.1 で Astra 61.2、Sol 60.9、Claude Fable 5.1 が 65.7、Opus 5 が 63.1^{5,6}。開発者コミュニティでは「61 から 61 へ」との揶揄も報じられている（Hacker News 上の原投稿は未確認）¹³。
- **【確定】** ジャグド（ムラのある）性能：Artificial Analysis は AA-Briefcase で約 80 Elo 改善する一方、GDPval-AA v2 で約 80 Elo 低下、 τ^3 -Banking・SciCode・長文脈推論（AA-LCR）で 2〜3 点低下を報告。AA-Omniscience のハルシネーション率は Sol の 92%→Astra 51%（最大 effort）へ低下⁵。
- **【確定】** OpenAI 自社の GDPval（米 9 産業・44 職種・1,320 タスク）がローンチから除外された点を、VentureBeat（Carl Franzen）は「AGI」フレーミングに照らし「conspicuous（際立って不自然）」と指摘¹⁴。
- **【確定】** ARC-AGI-3 の 99.9%は自社ハーネス依存で、ARC Prize の標準（provider-neutral）ハーネスでは 62.7%（▲37 ポイント）^{15,16}。数値の比較可能性に注意を要する。

3.2 法務・知財近接領域の評価

- **【確定】** Vals AI：Astra は総合 Vals Index で 3 位（66.61%）だが、Legal Research Bench は約 16〜17 位／57 モデル、Harvey Legal Agent Benchmark（HLAB）は約 20 位／58 モデルと中位。Legal Research Bench の首位は Claude Opus 5 と Fable 5.1（ともに 55.29%）、Fable 5 が 49.52%、GPT-5.6 Sol は 48.08%。HLAB は全モデルが低スコア（首位 Muse Spark 1.2 で 25.42%、Fable 5.1 が 6.67%、Sol は Harvey 内部 LAB で 2.5%）⁷。Astra の法務百分率は Vals 上で非表示（ランクのみ）である点に注意。
- **【確定】** Harvey の定性評価：応用研究責任者 Niko Grupen 氏は OpenAI ローンチ投稿で、Astra は Sol に対し複雑な法務タスクで著しい品質改善があり、文書と確立された記録を区別し、根拠なき前提をあぶり出し、ギャップを具体的なドラフティング上の立場に変換する、と評価³。ただしベンダー投稿の定性評価であり、定量検証ではない。

4. 「未解決問題 10 問」の位置づけ【確定・要点のみ】

- 2026 年 8 月 1 日、OpenAI は内部版 Astra が数学・理論計算機科学の 10 の長年未解決問題で新結果を得たと発表（高次元幾何、符号理論、算術回路計算量、群論、作用素環、量子

計算量、格子暗号、極値組合せ論の 8 分野)。249 ページの原稿と Lean 4 形式証明を GitHub (Apache 2.0) で公開、「sorry」カウントはゼロ。トークンコストは約 2,000 ドル (Sol API レート換算)^{17,18,19,20}。

- ・ 検証状況：Lean 証明は機械的に検証可能だが、2026 年 9 月初旬時点で伝統的な学術ピアレビューは未完了であり、貢献者クレジットを巡る議論も生じている。erdosproblems.com 運営者 Thomas Bloom 氏 (University of Manchester) は「構成という点では大きい」と評価、OpenAI の Noam Brown 氏は「ミレニアム懸賞問題ではない」と明言^{19,21}。

5. 業務領域別比較：GPT-5.6 時代 vs GPT-6 Astra 時代

Claude Fable 5→5.1 版と同じ区分 (a～g) で対比する。各セルに【確定】【分析】を付した。

業務領域	GPT-5.6 時代 (2026 年 7～8 月)	GPT-6 Astra 時代 (2026 年 9 月～)
a. 先行技術調査・無効資料調査・FTO	【確定】100 万トークン文脈で数百件の文献を一括処理、キーワード整理・検索式作成支援、ヒット文献の要約・比較 ^{22,23} 。特許 DB (Espacenet/Google Patents/J-PlatPat) の自律操作は Sol でも可能だが、精度・速度に課題。	【確定】コンピュータ操作の精度・速度・安全性が大幅向上 (OSWorld 65.7→72.6%、ScreenSpot-Pro 76.9→92.7%、Mind2Web で 1.9 倍高速) ^{3,24} 。長文脈検索の信頼性向上 (512K-1M で 73.8→96.3%) とハルシネーション低下 (12.2→4.2%) は、引用の正確性が生命線の無効資料調査で重要 ³ 。 【分析】DB 操作を伴う FTO・クリアランス調査の自律実行が実用域に。ただし新規性・進歩性の「判断」は人間の検証が必須。侵害予防調査では「何をどこまでどう調べたか」の説明可能性が重要で、自律化は監査可能性とのトレードオフを生む。
b. 明細書・クレームのドラフティング/中間処理/引用文献分析	【確定】対話型のドラフト生成、OA 分析、引用文献の対比。Tokkyo.Ai (GPT 基盤)、Patentfield AIR (GPT-4o-mini) 等が国内で実装済み ²³ 。	【確定】テンプレート追従性・文書整形能力の向上 (OpenAI は「既存テンプレートに従い体裁の整った文書・スライド・スプレッドシートを生成する最良モデル」と主張) ³ 。Codex の文脈横断ノート保持により長時間ドラフティングでの文脈喪失が軽減 ³ 。Harvey は特許・IP 訴訟ワークフロー (クレームチャート、無効主張、OA 分析、ライセンス契約、出願書類) を 2026 年 2 月

業務領域	GPT-5.6 時代（2026 年 7～8 月）	GPT-6 Astra 時代（2026 年 9 月～）
		に 5 テンプレート追加済み²⁵。 【分析】クレームドラフティングは「判断」が支配的で、汎用知能の伸びは限定的（独立指数横ばい）。品質改善は Harvey の定性評価に依存し、定量的裏付けは薄い。弁理士レビュー前提は変わらない。
c. IP ランドスケープ・ポートフォリオ分析・経営層向け報告	【確定】長文脈での大規模分析、出願動向の解釈、ポートフォリオ比較。IPL 特化ツールは GPT/Claude 統合型（Patentfield AIR、Tokkyo.Ai 等）、自社 LLM 型（PatSnap、IPRally、Patlytics、NLPatent）、AI エージェント型（PatSnap Eureka、IPRally Agent、Tokkyo.Ai Deep Agent）に類型化される^{23,26}。	【確定】AA-Briefcase（数週間規模・多数リンク・数千ソースファイルのタスク）で分析品質が Elo 約 80 点改善⁵。BenchCAD 83.3→95.9%等、CAD・電気回路操作の向上³。 【確定】ただしプレゼン品質 Elo は Sol がなお首位で、Astra はむしろ Presentation Quality 低下⁵。【分析】大規模 IPL・経営報告の「分析」には有用だが、「見せ方」では Sol や Claude が優位な場面が残る。
d. 発明発掘・R&D 連携／AI 発明者問題	【確定】発明提案の言語化・整理支援、文献ベースの技術課題抽出。科学研究のエージェント的遂行は Terminal-Bench Science 22.4%と限定的³。	【確定】「サイエンスエージェント化」が最大の質的变化：FrontierMath Tier 4 97.6%、未解決問題 10 問の解決、専用科学ソフト操作（シーケンス品質検査、細胞追跡）により、AI が発明プロセスの上流に入る^{3,18}。 【確定】日本最高裁は 2026 年 3 月 4 日、DABUS 事件の上告受理を認めず棄却。知財高裁 2025 年 1 月 30 日判決が確定し、発明者は自然人でなければならないことが確認された^{27,28}。 【分析】AI が着想の実質を担うほど、人間発明者の資格立証（誰がいつ何を着想したか）が難所となる。プロンプト・思考過程・貢献ログの記録保全が防御線。
e. 契約・ライセンス・SEP/FRAND・訴訟	【確定】契約レビュー、判例分析、クレームチャート。Harvey（AmLaw100 の多数+500 超の企業法務）が Sol を 6 月 30 日に実装³。	【確定】Harvey は「根拠なき前提のあぶり出し、ギャップの具体的ドラフティング立場化」を評価³。長文脈・低ハルシネーションは大量契約・判例分析に有利。ただし

業務領域	GPT-5.6 時代（2026 年 7～8 月）	GPT-6 Astra 時代（2026 年 9 月～）
		HLAB は全モデルが低スコア（首位 25.42%、Sol 2.5%）で、エンドツーエンドの法務タスク完遂は未成熟⁷。 【分析】SEP/FRAND の複雑な経済・法解釈は人間主導が続く。
f. 組織・人材・ガバナンス	【確定】 OpenAI API は既定で入力／出力を 30 日後削除、適格エンドポイントで ZDR（Zero Data Retention）選択可。ChatGPT Enterprise は管理者が保持期間を制御。NYT 対 OpenAI の証拠保全命令では Enterprise／ZDR は対象外^{29,30}。	【確定】 Astra は ZDR 対応（適格 API 顧客）、Private Safety Processing を試験中³。ZDR は API 限定で ChatGPT ブラウザ利用は別ポリシー、濫用監視メタデータは一定期間保持²⁹。 【確定】 コンピュータ操作エージェント固有の新リスク：プロンプトインジェクションは OWASP Top 10 for LLM Applications で LLM01（2 版連続首位）³¹。2026 年 5 月 1 日、米 CISA・NSA 等 6 か国機関が共同ガイダンス「Careful adoption of agentic AI services」を公表し、強固なガバナンス・人間の監督を必須の前提とし、効率よりレジリエンス・可逆性・リスク封じ込めを優先せよと警告³²。 【分析】 出願前情報・営業秘密が操作対象データに混入するため、権限最小化・監査・可逆性設計、Enterprise＋ZDR＋一時チャット＋DLP の多層防御が必須。エージェント設計・監督（human-on-the-loop）、注入対策、出力検証が知財人材の新コンピテンシーに。
g. 特許庁側 AI との相互作用	【確定】 特許庁「AI 技術活用アクション・プラン（令和 7 年度改定版）」：特許分類付与・先行技術調査①（概念検索・ランキング）が導入フェーズに移行³³。	【確定】 先行技術調査②・指定商品役務調査・生成 AI の特許行政事務／審査業務への適用を令和 7 年度に技術実証³³。 【分析】 審査側の AI 活用と出願側の AI 高度化が並行して進み、先行技術の発見が双方で早期化する。

注：【確定】は公式発表・公表実証・公的文書、【分析】は筆者の見立て。

6. Claude Fable 5→5.1 との対比

- **Fable 5→5.1 (2026 年 9 月 1 日)**：同一モデルコアの微調整版。標準価格は据え置き（入力 10 ドル／出力 50 ドル）だがキャッシュ読取 75%減で典型ワークロード約 25%安。Terminal-Bench-Science 24.7→52.6%、判定者は 5.1 を約 2 対 1 で選好。EFS（実質ゼロデータ保持）強化^{34,35,36}。実務では「違いが分からない」との第三者評価もある³⁷。HLAB は Fable 5.1 が 6.67%と、Fable 5 の 11.25%から回帰（法務は弱点）⁷。変化幅は「マイナーアップグレード＋価格・データ保護改善」。
- **5.6→6 Astra (2026 年 9 月 3 日)**：世代交代＋エージェント基盤刷新。変化幅は大きい、汎用知能の独立指標は横ばいで、宣伝（「AGI の到来」「世界最高知能」）と実測の乖離が顕著^{5,11}。
- **共通点【分析】**：①価格・データ保護（ZDR）がエンタープライズの争点化、②サイエンス／エージェント能力の前面化、③法務エンドツーエンドタスクは依然弱点。**相違点**：Anthropic が漸進・価格重視で堅実に積み上げるのに対し、OpenAI は世代ジャンプ＋サイバーCritical＋AGI ナラティブという大振りの戦略を採る。

7. 知財部門への推奨アクション【分析】

7.1 第 1 段階（即時：0～1 か月）

1. **モデル使い分けの再設計**：長文脈の先行技術・大規模契約分析・コンピュータ操作を伴う調査自動化に Astra、費用対効果重視の日常業務に Sol や Claude Opus 5、法務エンドツーエンド作業は Claude 勢も比較検討。公表値は自社評価・未独立検証のため、自社ワークロードで再検証する。
2. **ガバナンス緊急点検**：出願前情報・営業秘密を扱う業務で ChatGPT Enterprise＋ZDR＋管理者保持制御が有効かを確認。コンピュータ操作エージェントは権限最小化・監査ログ・人間承認（Codex Auto-Review 相当）を必須化する^{32,29}。

7.2 第 2 段階（3～6 か月）

3. エージェント運用のパイロット：FTO・クレームチャート等の定型多段階作業で Astra／Harvey 等を試験導入し、時間削減とハルシネーション・引用精度を実測する。本番投入前にプロンプトインジェクション耐性のレッドチーミングを実施する。
4. 発明記録プロセスの整備：AI 協働発明で人間発明者の着想を立証できるよう、プロンプト・出力・貢献のログ保全を標準化する（AI 発明者問題・冒認対策）²⁷。

7.3 第 3 段階（6～12 か月）

5. 費用対効果の定量評価：Astra は入力 10 ドル／出力 50 ドルと Sol の 2.5 倍。トークン効率（最大 effort で約 3 倍のトークン削減との報告）を織り込んだタスク単価で判断し、高難度タスクのみ Astra、残りは安価モデルヘルパーティングするマルチモデル構成を推奨^{3,10}。

7.4 判断を変える閾値（トリガー）

- 独立系（Artificial Analysis、Vals）で Astra が Fable 5.1 を法務・総合指標で明確に上回る → Astra 主軸化を検討。
- OpenAI が GDPval 結果を公開し良好 → 経済価値タスクの自律化を本格導入。
- HLAB 等の法務エージェントベンチが実用水準（例：全モデルが強制全パスで 30%超）に到達 → エンドツーエンド法務自動化を再評価。
- 特許庁の生成 AI 技術実証が導入フェーズに移行 → 出願実務の AI 前提化を加速³³。

8. 留意事項

- 公表ベンチマークの大半は OpenAI 自社評価であり独立検証前。最大 effort 設定、ハーネス差（ARC-AGI-3 の 99.9% vs 62.7%）、OSWorld のバージョン差、比較対象モデルの設定変更などで比較可能性に留保が必要^{15,5}。
- 「AGI の到来」は Brockman 氏の主観的発言であり、OpenAI 自身の GDPval はローンチから除外されている。独立指標は汎用知能の横ばいを示す^{11,14,5}。
- 法務・知財近接領域の Astra 実測は薄い。Vals 上の Astra の法務スコアは百分率が非表示（ランクのみ）、Harvey の評価は定性的なベンダー投稿である^{7,3}。なお「Astra が法務で

回帰」との言説は Fable 5.1 の話の誤用であり、Astra の開示済み回帰（GDPval 等）は非法務領域。

- サイバーCritical 能力により公開版は高度サイバータスクを拒否する。安全チェックが正当な業務を停止・中断する場合がある⁴。
- AI 発明者・データ帰属・営業秘密の法制度は流動的。日本最高裁 2026 年 3 月 4 日決定で AI 単独発明者性は否定確定したが、「人間と AI の協働でどこまでの人間関与が必要か」は未解決^{27,28}。

9. 総括：5.6→6 Astra で知財業務にとって本質的に変わる 5 点

- AI が「答える」から「操作して仕上げる」へ：特許 DB・Office ソフトを自律操作する多段階作業（FTO、クレームチャート、IPL レポート）が実用域に入り、知財部門の業務設計はエージェント監督型へ移行する³。
- 長文脈の信頼性とハルシネーション低減：1M 級文書からの正確な引用抽出（MRCCR 96.3%）と低ハルシネーション（4.2%）は、無効資料調査・大量契約分析で実質的価値を持つ³。
- サイエンスエージェント化が発明プロセスに侵入：AI 発明者の資格立証（人間の着想の文書化）が新たな防御線となる。日本では 2026 年 3 月 4 日に AI 単独発明者性が最高裁レベルで否定確定²⁷。
- 新たなガバナンス対象=コンピュータ操作エージェント：プロンプトインジェクション等のリスクにより、権限最小化・ZDR・監査・人間承認が知財の機密管理の前提条件になる^{31,32}。
- 宣伝と実測の乖離を割り引く判断：汎用知能・法務近接領域では Claude Fable 5.1 が優位な場面残り、Astra 一択ではなくマルチモデル使い分けが合理的^{5,7}。

Claude Fable 5→5.1 との違い・共通点（一言）：Fable 5→5.1 は「同一コアの微調整+価格・データ保護改善」という漸進、5.6→6 Astra は「世代交代+エージェント基盤刷新+AGI ナラティブ」という大振り。共通点は、両者とも①エンタープライズのデータ保護（ZDR）が争点化し、②サイエンス/エージェント能力を前面に出しつつ、③法務エンドツーエンドタスクは依然として弱点である点にある。

参考文献

- [1] Wikipedia, “GPT-5.6” (提供開始日・派生モデルの整理), 2026 年 9 月閲覧.
<https://en.wikipedia.org/wiki/GPT-5.6>
- [2] OpenAI, “Previewing GPT-5.6 Sol: a next-generation model”, 2026 年 6 月.
<https://openai.com/index/previewing-gpt-5-6-sol/>
- [3] OpenAI, “GPT-6 Astra: A new generation of intelligence”, 2026 年 9 月 3 日.
<https://openai.com/index/gpt-6-astra/>
- [4] OpenAI, “GPT-6 Astra System Card”, OpenAI Deployment Safety Hub, 2026 年 9 月.
<https://deploymentsafety.openai.com/gpt-6-astra>
- [5] Artificial Analysis, “Benchmarking GPT-6 Astra” (Intelligence Index v4.1.1、AA-Briefcase、GDPval-AA v2、AA-Omniscience 等), 2026 年 9 月. <https://artificialanalysis.ai/articles/benchmarking-gpt-6-astra>
- [6] Trending Topics, “GPT-6 Astra Trails Top Models From Anthropic in Benchmarks”, 2026 年 9 月.
<https://www.trendingtopics.eu/gpt-6-astra-trails-top-models-from-anthropic-and-meta-in-benchmarks/>
- [7] Vals AI, GPT-6 Astra／GPT-5.6 Sol／Claude Fable 5.1 等のモデル評価ページ (Vals Index、Legal Research Bench、Harvey Legal Agent Benchmark), 2026 年 9 月閲覧. (GPT-6 Astra 個別ページの URL は未確認。Astra の法務ベンチは百分率が非表示でランクのみ確認)
- [8] OpenRouter, “GPT-5.6 Sol – API Pricing & Benchmarks”, 2026 年 9 月閲覧.
<https://openrouter.ai/openai/gpt-5.6-sol>
- [9] Yotta Labs, “GPT-6 Astra: Release Date, Pricing, Benchmarks, and Rollout (2026)”, 2026 年 9 月.
<https://www.yottalabs.ai/post/gpt-6-release-date-rumors-what-is-known-2026>
- [10] DataCamp, “GPT-6 Astra: Features, Benchmarks, and Pricing”, 2026 年 9 月.
<https://www.datacamp.com/blog/gpt-6-astra>
- [11] Axios, “OpenAI releases new model GPT-6 Astra, says it may represent AGI”, 2026 年 9 月 3 日.
<https://www.axios.com/2026/09/03/openai-astra-gpt-6-agi-brockman>
- [12] Vellum, “GPT-6 Astra Benchmarks Explained”, 2026 年 9 月. <https://www.vellum.ai/blog/gpt-6-astra-benchmarks-explained>
- [13] MindStudio, “GPT-6 Astra Benchmarks: Is It Really Better Than Fable 5.1?”, 2026 年 9 月.
<https://www.mindstudio.ai/blog/gpt-6-astra-benchmarks-analysis>
- [14] VentureBeat (Carl Franzen), GPT-6 Astra ローンチにおける GDPval 除外に関する記事, 2026 年 9 月. (URL 未確認)
- [15] Jayant Solanki, “GPT-6 Astra Benchmarks Explained: Every Score, and Why the Records Have Asterisks”, 2026 年 9 月. <https://thejayant.in/blog/gpt-6-astra-benchmarks>

- [16] ARC Prize Foundation, GPT-6 Astra の ARC-AGI-3 検証結果 (provider-neutral ハーネス), 2026 年 9 月. (URL 未確認)
- [17] TUN, “OpenAI’s Astra Solves 10 Math Problems That Stumped Experts”, 2026 年 8 月.
<https://www.tun.com/home/openais-astra-solves-10-math-problems-that-stumped-experts/>
- [18] Quartz, “OpenAI Astra model solves 10 open math problems for \$2,000”, 2026 年 8 月 3 日.
<https://qz.com/openai-astra-model-math-problems-lean-proofs-080326>
- [19] The Decoder, “OpenAI announces its ‘next major model’ Astra by dropping ten previously unsolved math solutions”, 2026 年 8 月. <https://the-decoder.com/openai-announces-its-next-major-model-astra-by-dropping-ten-previously-unsolved-math-solutions/>
- [20] Tech Insider, “OpenAI Astra Solves 10 Open Math Problems [2026]”, 2026 年 8 月. <https://tech-insider.org/openai-astra-solves-10-open-math-problems-2026/>
- [21] wan27.org, “OpenAI Astra Math Solutions: 10 Open Problems Solved by the Next Major Model” (Thomas Bloom 氏・Noam Brown 氏の X 投稿を引用した二次記事), 2026 年 8 月.
<https://wan27.org/blog/openai-astra-math-solutions> (X 上の原投稿は未確認)
- [22] 知財実務情報 Lab. 「生成 AI を特許調査に活用する方法 (4) 検索式の作成」 2025 年 9 月 2 日.
<https://chizai-jj-lab.com/2025/09/02/0829-3/>
- [23] よろず知財戦略コンサルティング「GPT-5.4 と知財業務への影響分析」 2026 年 3 月 7 日.
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/0837e6f41feca8a3b081.pdf>
- [24] Analyst Uttam (Substack), “GPT-6 Astra Isn’t Just Smarter. It’s Being Trained to Use Your Computer.”, 2026 年 9 月. <https://analystuttam.substack.com/p/gpt-6-astra-complete-guide-use-cases-computer-use>
- [25] Harvey, 特許・IP 訴訟ワークフロー (クレームチャート、無効主張、OA 分析、ライセンス契約、出願書類) 5 テンプレート追加の発表, 2026 年 2 月. (URL 未確認)
- [26] TAMradar, “Patlytics Raises \$40M Series B for AI Patent Platform”, 2026 年.
<https://www.tamradar.com/funding-rounds/patlytics-series-b-40m>
- [27] 財経新聞「『AI は特許の発明者になれない』日本の最高裁が上告棄却、7 年に及ぶ世界的な法廷闘争に終止符」 2026 年 7 月 6 日. <https://www.zaikai.co.jp/article/20260706/859896.html>
- [28] Keisen Associates, 日本最高裁 2026 年 3 月 4 日決定 (DABUS 事件・上告不受理) の解説. (URL 未確認)
- [29] OpenAI, “Enterprise privacy at OpenAI” (データ保持・ZDR・Enterprise の管理者制御), 2026 年 9 月閲覧. <https://openai.com/enterprise-privacy/>
- [30] Telescope, “Zero Data Retention: What It Means for AI Security”, 2026 年.
<https://www.teleskope.ai/post/zero-data-retention>
- [31] OWASP, “Top 10 for LLM Applications 2025” (LLM01: Prompt Injection), 2025 年 11 月改定.
(URL 未確認)

- [32] CISA・NSA・ASD ACSC・CCCS・NCSC-NZ・NCSC-UK 共同ガイダンス “Careful adoption of agentic AI services”, 2026 年 5 月 1 日. (URL 未確認)
- [33] 特許庁「特許庁における人工知能 (AI) 技術の活用に向けたアクション・プランの令和 7 年度改定版について」. https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-fy2025.html
- [34] Anthropic, “Introducing Claude Fable 5.1 and Claude Mythos 5.1”, 2026 年 9 月 1 日.
<https://www.anthropic.com/claude-fable-and-mythos-5-1>
- [35] Emergent, “Claude Fable 5.1 vs Fable 5: What Changed”, 2026 年 9 月.
<https://emergent.sh/learn/claude-fable-5-1-vs-fable-5>
- [36] Layer3Labs, “Claude Fable 5.1 Review: Capability, Strengths”, 2026 年 9 月.
<https://www.layer3labs.io/guides/claude-fable-5-1-review>
- [37] The New Stack, “Claude Fable 5.1 vs. Fable 5: On real work, I couldn’t tell them apart.”, 2026 年 9 月.
<https://thenewstack.io/claude-fable-upgrade-tested/>